

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570500146		
法人名	特定非営利活動法人 しみんふくしの家八日市		
事業所名	しみんふくしの家八日市グループホーム		
所在地	東近江市東沖野2丁目5-5		
自己評価作成日	平成27年6月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.shigashakyo.jp/kohyo/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会		
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-55		
訪問調査日	平成27年7月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さい子供から高齢者まで地域の中で共に助け合って暮らし、その人がその人らしく最期まで人として尊厳をもって暮らしていけるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1990年代の北欧から学び、介護保険制度草創期からグループホームに取り組んで来られた管理者は、地域密着型サービスの特徴である「本人本位の支援」、「継続的な支援」、「地域で暮らし続ける」、「地域との支えあい」を一貫して追求、定着化されてきた。
特に終末期の看取りについては在宅療養支援診療所の支えで態勢が整っている。
また、運営推進会議や毎月の災害訓練に地域のワーキンググループの方々加わり、自治会の認知症・徘徊高齢者保護訓練開催にも協力者として重要な役割を果たしている。
地域の集会所で毎月開かれる地域サロン(子ども達も参加)に利用者がいつも参加しているが、これは元々このグループホームで立ち上げたものが地域に定着したものである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で子供から高齢者まで共に暮らし続けられるという理念を共有して隣接の学童保育の子供達地域の人々高齢者とも交流している	「人々が互いに支えあい、互いに尊敬しあい、住み慣れたわが町で自分らしい生活がいつまでも続けられることを願って」という法人の理念を胸に日々の運営がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回地域のサロンに参加させていただく等地域の一員として日常的に交流している	高齢者と子供が交流する毎月の地域のサロンは長く続けられて地域に根付いており、毎回参加できる人は参加している。 3月に行われた自治会の認知症・徘徊高齢者訓練は準備段階から事業所も関わった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ等行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設長を中心に利用者の状況を報告し地域の方の意見を取り入れ協力体制が取られている。	運営推進会議の委員に地域の協力者であるワーキンググループのメンバーが複数入り、事業所を超えた地域の福祉課題への取り組みも多く協議、推進されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者との連携がありスタッフに伝えながら取り組んでいる	管理者を中心に民間事業者の立場から協力、連携し市の福祉行政推進に貢献している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は行っていない。利用者が外出したい時一緒に歩く等その気持ちを受け止め不安や混乱を取り除くよう努めている	個々の利用者の気持ちを丁寧に受け止め、身体拘束をしないケアの実践を続けてこられたので、最近は課題とする事例が少ない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員全員が認識しており見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を利用されている入居者さんもおられ職員はできる範囲の支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、ケアマネ、管理者が行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回家族会を開催し意見要望を伺いスタッフ会議で検討運営に反映している。また来所時いつでも家族が話しやすいような雰囲気を作るよう心がけている	利用者の日々の発言や様子からの受止め、年一回家族会、3ヶ月毎の職員から家族への報告に対する反応、来所時のやり取り等で家族の意見や思いの把握、運営への反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議で職員全員が話し合い意見提案を反映している	理念の実践を追及しつつ職員負担に無理のないよう配慮されているため、運営に関する職員意見は殆どない。スタッフ会議では利用者の1ヶ月の介護記録を基に今後の利用者との関わり方について多く議論されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人年二回以上研修を受けている。その内容をスタッフ会議で報告し全員が聞いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会グループホーム事例検討会(三ヶ月に一回)に参加しサービスの質を向上させる取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の苦労経緯等お話を聞きご本人の気持ちを傾聴し安心できるよう職員間で話し合っ て良い関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お試し期間を設けてその間に不安や要望等を聞き良い関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お試し期間を設ける事により本人と家族が希望されない場合には他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちに添い共に支えあい助け合っ て生活している。それぞれができる範囲で役割を持ち自信を持って暮らして頂けるようスタッフ一人ひとりが関われるよう努力している			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、面会、行事の参加をお願いし三ヶ月に一度近況を手紙でお知らせしている。その手紙で様子がよく分かれると遠方の家族から喜ばれている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問は多く家族との旅行、外食、実家に泊まりに行かれる等家族との関係は継続できている。長年にわたり友人も会いにきてくださっている	利用者は概ね家族の訪問を心待ちにしている ので、家族会や定期的な手紙等で事業所から家族にその心情を伝えるよう努めている。家族訪問時は歓迎するが他の利用者との関係にも職員は気遣っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の気持ちを配慮し家事の役割分担をさりげなくできるようスタッフ間で協力しているが難しい場面もでてくる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんが亡くなられた後も家族さんと交流がありクラフト作りやギターライブに来てくださっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に担当がいて毎月一ヶ月の様子を記入し月一回のスタッフ会議で本人の希望や意向に添えるよう本人本位に検討し実践するよう努めている	職員は利用者個々の様子を日々こまめに記録して利用者の思いや意向の把握に努め、直ぐ取り組むこと以外は毎月のスタッフ会議で協議し、実践につなげる様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんからのお話、写真、ご本人からの何気ない言葉等これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動、表情、顔色、声の大きさ等多面から感じ取り日課表やケース記録、申し送り等でその人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者が主となり毎月一度スタッフ会議でその月の様子を伝え課題や本人の希望意向に添えるようスタッフそれぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している	介護計画の内容は、担当者が月1回のスタッフ会議の時に、その時々本人の健康状態や思い等を的確に伝え、それを反映するようスタッフ全員で協議、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、日課表にその都度記入し申し送り等で様子変化を確認し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて人員の増員、ホームサービス、家族さんの協力も得ながら柔軟な支援や支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度の地域サロンの参加、ギターライブ、クラフト作りのボランティア、保育の子供達やスタッフの子供達の来訪等豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が地域の在宅療養支援診療所の医師を主治医としていて毎月一回往診してもらい緊急時にはいつでも連絡し支持を仰いで対応している	主治医である在宅療養支援診療所医師が毎月往診する。何かの時は電話で指示するが、必要な場合は直ちに診察に出向いている。職員、看護師は的確な状況把握と医師への報告相談に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状態を報告相談指示を仰ぎ対応している。又、日々の記録や往診時の記録、薬の管理もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近年入院されていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の在宅療養支援診療所の医師を主治医に迎え看護師も配置している。家族の要望に応じ看取りができる体制を整えている。終末期については医師家族やスタッフで話し合い看取りの確認書を交わしている	終末期の意向確認書、看取り看護計画書等整えられている。 主治医である在宅療養支援診療所医師は在宅看取り実績豊富な著名人であり、いざという時の体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種マニュアルを備え周知徹底を図っている。隣接の学童にAEDを設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中に避難訓練を実施し一ヶ月に一回シミュレーションで避難訓練をしている	毎月の訓練ごとに事故原因想定を替えることで様々な施設の改善につなげたり、避難の訓練で陥りやすい不適切な行動パターンの存在を認識する等学んでいる。近隣の支援者も訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時目立たずさりげない言葉かけをしその人の人格を尊重している。年長者として敬意を払い人間の尊厳についてくり返しスタッフ会議で話し合っている	職員の個々の利用者への言葉かけは今までの関係づくりの試行錯誤の積み重ねで人格尊重の精神が深まったものとなっているように感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけをし表情や行動からも思いをくみとり遠慮せず自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床食事就寝時間等も本人のペースに合わせている。その日の過ごし方も本人の希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みのスタイルを把握しその人らしさを保てるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はほぼ利用者さん達が準備して下さっている。スタッフは声かけや補助をしている。毎食の片付けは利用者さんと職員と一緒にしている。	食材の調達以外は職員と利用者が献立、調理、盛り付け、配膳、洗物、片づけに取り組んでいる。利用者によっては盛付、配膳等を習慣にしている。職員は利用者間の仕事の役割調整にも心を砕いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量を記録把握している。その人に応じてきざみ食、ペースト食、糖尿の人には砂糖カロリー控えめにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には声かけ、見守りをし、できない方には口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。意思表示が困難な方には表情仕草をみてトイレ誘導を行っている	一枚の用紙に利用者すべての排泄チェックを含む一日の動きが記号やごく短い言葉で記載され、職員は適切なタイミングのトイレ誘導等に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録、把握し薬のみに頼らずオリゴ糖、水分補給、繊維質の多い食材の提供や体操散歩等身体を動かすよう支援している。食後のトイレ誘導、腹部マッサージもしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな方にも無理強いをせず気持ちよく入ってもらえるよう声かけをしている。本人の希望に合わせて個々にそった入浴を支援している	毎日入りたい人、順番を決めている人、入浴を好まない人等様々であるが、個々に気持ち良く入浴できるよう工夫している。浴槽は両側から介助できるよう配置されており、リフトを含め利用者の安心感につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を楽しく無理のない程度に促す事で夜間ほぼ全員の方が良く眠られている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を保管している。服薬時は本人に手渡し服薬の確認をしている。処方の変更等があった場合には状態変化の観察をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り掃除洗濯物干し食事片付け等家事全般一人ひとりに役割があり自信を持って生活できるよう支援し感謝の言葉を伝えている。カレンダー作り、歌、体操、散歩、球技、クラフト作り等その人にあった楽しみを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があればできるだけ外出を行い体調気分様子を見ながら買物、外食、花見、喫茶店、公園等行っている。家族さんも散歩、外出、外食、買物等行っただきしている	毎週訪問する家族と外出する等恵まれた方も含め、職員は個々人の外出支援を心掛けている。利用者個々の体力差が広がって来ており、皆で出かけるのは難しいが、その人の体力に合わせた外出支援のためにボランティアを配備するなど工夫して実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な人には要望があれば持っていたいでいる。本人の希望により買物に付き添い、お金を使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等本人が話されたり読まれたりしている。本人と家族との関係を大切に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の花壇、みかん、さくらんぼ等の木があり、実を取って食べたり玄関には季節の花を飾ったりしている。又、室内の床暖は居心地よく過ごせている。季節の作品やカレンダーも飾っている	建物内の共用空間は広くなく、人と人の物理的な距離が短いことが心理的な身近さにつながっているように感じられる。 実のなる木がいろいろある庭では、今ヤマモモが鈴なりで、その時々季節の実を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼリビングに集まって来られるが思い思いに自室に帰られる事もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やベッドを配置し家族の写真や自ら作られたカレンダー等を貼ってもらったりその人らしく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真に見つめられたり好みのものの配置が心の安らぎをもたらしているのだろう。障子の引き戸から入る居室は共用空間の賑やかさと対照的な落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「便所」と大きな字で書き分かりやすくしている。スロープや浴室にはリフトも設置している		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	Iさんは時間や順番にこだわりがあり、他の利用者さんを自分の思うとおりに指示しようとされトラブルになる	Iさんの気持ちに添いながらも他の利用者さんが嫌な思いをせずお互いが居心地良く暮らせる	日常の何気ない会話やスキンシップでIさんの淋しさを和らげる。洗濯物干しの時にはIさんの思われるように干しながらもスタッフが間に入って他の利用者さんにも干していただく。	6カ月
2	21	HTさんは家事を自分がしないとけないという思いが強くとNさんに「あんたあっち行ってて良いよ」と家事をさせてくれない(Nさんはできるのに)	HTさんとNさん、また他の利用者さんがお互いに嫌な思いをせず役割分担ができ個々に自信を持って楽しく家事ができる	HTさんは皿拭きが好き。Nさんは台拭きが好きというようにご本人の好まれる事を分担して楽しく家事をしていただくようさりげなく声かけしていく。	6カ月
3		利用者さんの歩く早さ、体調、疲れ等に差があり、皆と一緒に散歩に行く事が難しくなっている	天気の良い日にはそれぞれの利用者さんが安全に楽しく散歩ができる	一斉に全員が散歩に行くのではなく個々の歩く早さや体調に合わせて少人数で散歩する。全員の外出の時はボランティアの方等来ていただきケアする者の人数を増やす。	6カ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()